

国際安全保障学会
2022 年度年次大会

Japan Association for International Security

Annual Conference 2022

国士舘大学・世田谷キャンパス

2022 年 12 月 3 日～4 日（土・日）

○会員の方は、11 月 11 日（金）（必着）までに同封のハガキにて
出欠をお知らせください。

○非会員の方も、11 月 11 日（金）までに事前登録（本冊子の「お
知らせ」欄をご覧ください）をお願いします。

年次大会のご案内

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。2022年度年次大会のプログラムをお届けします。

今年はロシアによるウクライナ侵攻や、台湾をめぐる緊張の高まりなど、国際安全保障環境が一段と厳しさを増す年となりました。日本でも、国家安全保障戦略など安保3文書改定が進められ、安全保障の在り方に関心が寄せられています。

今年度はこうした情勢を踏まえつつ、大会プログラム委員会の企画による部会と会員からの応募を厳選した分科会に加え、ウクライナ侵攻をテーマとした特別シンポジウムを企画しました。

また、特別講演では、元駐米大使の佐々江賢一郎様をお迎えして、分断化する世界と日本をテーマにご講話をいただきます。

今回は3年ぶりの対面式での開催となります。一方、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、懇親会は中止とさせていただきますのでご了承下さい。

最後になりましたが、今回の開催の場を提供していただきました国土舘大学（開催校責任者：板山真弓監事）と、関係各位に厚く御礼申し上げます。

なお、プログラムは予告なく変更される場合もありますのであらかじめご了承下さい。

2022年9月

国際安全保障学会 大会プログラム委員会

12月3日(土)

◆受付 34号館3階 会議室B前

09:30～

◆セッションI

10:00～11:40

部会① 北東アジア冷戦の経路依存性と反実仮想分析 —「異なる現在」は存在しえたのか

(会場 34号館 B303)

責任者 今野茂充(東洋英和女学院大学)

報告

歴史分析における因果推論と反実仮想—北東アジア冷戦の経路依存性をどう考えるか

泉川泰博(青山学院大学)

冷戦終結期の北朝鮮核問題をめぐる日米韓の連携と競合

李鍾元(早稲田大学)

冷戦末期における日ロ平和条約交渉におけるオルターナティブ・ストラテジー

—ゴルバチョフ・エリツィン・プーチン(2001～2004)の時代

東郷和彦(静岡県立大学/元外務省・駐オランダ大使)

討論

福田潤一(笹川平和財団)

司会兼討論

楠綾子(国際日本文化研究センター)

分科会① 自由論題

(会場 34号館 B304)

責任者 倉科一希(同志社大学)

報告

トランプ政権の対アフリカ外交・安全保障政策

—無関心に基づく連続性とバイデン政権への遺産

神宮司覚(防衛研究所)

中国人民解放軍による台湾 ADIZ 進入が意味するもの

相田守輝(筑波大学大学院)

討論

尾形誠(元航空自衛隊)

司会兼討論

草野大希(埼玉大学)

◆セッションⅡ

13:10～14:50

部会② 習近平政権の中国—10年間の総括と展望

(会場 34号館 B303)

責任者 門間理良 (防衛研究所)

報告

習近平政権と中国のレーニン主義体制の再活性化

山口信治 (防衛研究所)

中国外交と中台関係の変化—米国との対立激化と台湾政策の行き詰まり

飯田将史 (防衛研究所)

中国社会の変容—習近平政権における「民主」と少数者への圧迫

阿古智子 (東京大学)

討論

堀田幸裕 (霞山会)

司会兼討論

村井友秀 (東京国際大学)

分科会② 自由論題

(会場 34号館 B304)

責任者 千々和泰明 (防衛研究所)

報告

ロシアのウクライナ侵攻とサイバー戦—サイバー戦は軍事作戦に寄与しうるか

川村幸城 (陸上自衛隊通信学校)

ロシアによるウクライナ侵攻と「保護する責任」

政所大輔 (北九州市立大学)

内戦の再発と経路依存性—国内における戦争の制度化

佐藤一也 (陸上自衛隊通信学校)

討論

川口貴久 (東京海上ディーアール株式会社)

司会兼討論

本多倫彬 (中京大学)

◆セッションⅢ 総会 (会場 34号館 B301)

15:00～15:40

◆セッションⅣ 特別講演 (会場 34号館 B301)

15:50～17:20

講師：佐々江賢一郎 (日本国際問題研究所理事長、元駐米大使)

演題：「分断化する世界と日本」

司会：赤木完爾 (国際安全保障学会会長)

12月4日(日)

◆受付 34号館3階 会議室B前

09:30～

◆セッションV

10:00～11:40

部会③ 【自衛隊部会】統合運用にかかる課題と各自衛隊の取り組み

(会場 34号館 B303)

責任者 荒木淳一(川崎重工業航空宇宙システムカンパニー)

報告

陸上自衛隊の新たな戦い方コンセプト

—コンセプト比較とシナリオ分析とによる統合運用下の将来構想の案出

岩上隆安(陸上自衛隊教育訓練研究本部)

台湾有事に係る戦略分析—統合運用の効用とその限界

後瀉桂太郎(海上自衛隊幹部学校)

小型無人航空機の脅威への対応にあたり考慮すべき事項について

—統合運用の観点から

杉山公俊(航空自衛隊幹部学校)

司会兼討論

福江広明(三菱電機株式会社)

◆セッション VI 特別企画 シンポジウム「ウクライナ侵攻と国際安全保障」

(会場 34号館 B301)

「ウクライナ侵攻と現代安全保障」

13:10～14:50

責任者 佐藤丙午(拓殖大学)・千々和泰明(防衛研究所)

コーディネーター

問題提起:ウクライナ侵攻の背景、振り返りと今後の展望 高橋杉雄(防衛研究所)

パネリスト

プーチン大統領の思惑と今後 兵頭慎治(防衛研究所)

ロシアの軍事戦略への評価 小泉悠(東京大学)

ウクライナの視点 東野篤子(筑波大学)

欧州・NATOの視点 鶴岡路人(慶應義塾大学)

中露関係の現状と将来 山添博史(防衛研究所)

米国の視点とアジア太平洋への影響 小谷哲男(明海大学)

「ウクライナ侵攻と安全保障の理論」

15:00～16:40

責任者 佐藤丙午(拓殖大学)・久保田徳仁(防衛大学校)

コーディネーター兼パネリスト

問題提起:ウクライナ戦争は国際政治の何をどう変えるか 土山實男(青山学院大学)

パネリスト

ロシアの意思決定、政治体制 溝口修平(法政大学)

リベラル国際政治学への影響、民主主義、核問題 栗崎周平(早稲田大学)

リアリズムへの影響、東アジアへの影響 宮岡勲(慶應義塾大学)

国際政治経済の意味と位置、日本の対応 鈴木一人(東京大学)

アメリカはどうか、国際秩序の行方 山本吉宣(東京大学)

お知らせ

【大会参加費】

- ・レジュメ（報告要旨）集の作成費として、会員 1 千円、非会員 2 千円を大会当日受付にてお支払いください。ただし、非会員の方で、学会より報告、討論などを依頼された方は、お支払いいただく必要はありません。

【非会員で聴講される方へ 事前登録のお願い 締め切り 11 月 11 日（金）】

- ・学会事務局（jais@naigai-group.co.jp）に以下をお知らせください。
 - ① お名前、② 勤務先、③ 連絡先（住所・電話）、④ 聴講希望する部会・分科会名
- ・参加登録メールをお送りしますので、それを当日受付に提示してください。
- ・報告、討論を依頼された非会員の方は、事前登録の必要はありません。

【理事会の開催予定】

- ・12 月 3 日（土） 12：00～13：00 34号館 A306

【編集委員会の開催予定】

- ・12 月 4 日（日） 12：00～13：00 34号館 A305

【昼食その他】

- ・12 月 3 日（土）は、学内食堂の 34 号館 B1、および 1 号館、8 号館の学生食堂が営業しております。
- ・12 月 4 日（日）は、学内食堂が休業です。大学周辺にはレストランやコンビニがあります。4 日のみ、食事スペースとして 34 号館 B302 号室をご利用できます。同封の返信用ハガキで弁当をご注文いただくことができます（弁当提供は 4 日のみ、1000 円、当日払い、事前に申し込みいただいた方のみ）。
- ・飲み物の自動販売機は 34 号館 B1 階にあります。

【その他】

- ・感染予防のため、参加に際してはマスクの着用をお願いします。
- ・自家用車でのご来場はできません。学内に喫煙場所はありません。
- ・報告、討議中の会場内での撮影、録音はやめてください。携帯電話での通話もご遠慮ください。
- ・本プログラムは、やむをえない事情で一部変更される場合もあります。
- ・大会の最新情報は学会ホームページ（<https://is-japan.org/>）をご覧ください。

会場アクセス

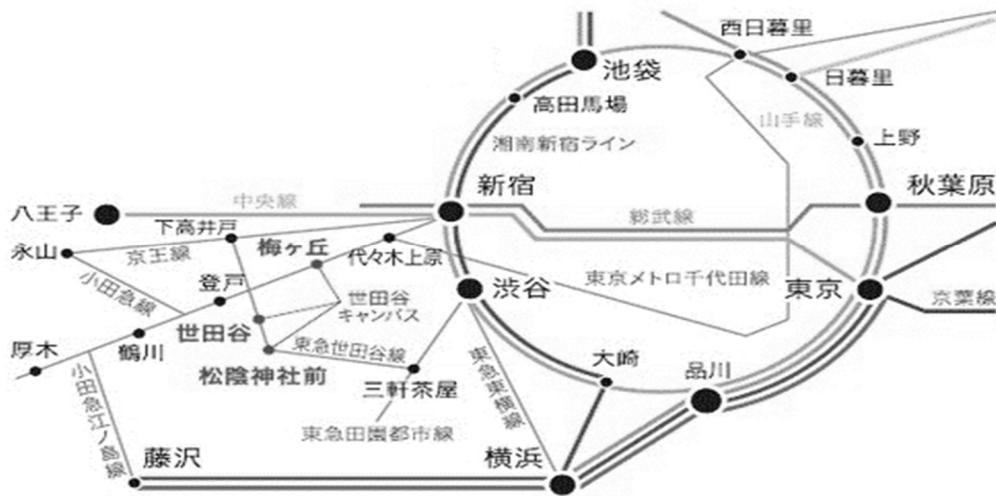
○会場 国士館大学・世田谷キャンパス「34号館」

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

○交通：

小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩9分

東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車、徒歩6分



○キャンパスマップ

